

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年12月末現在）

今月の重点活動

■スマート農業 飛騨地域でのスマート農業活用事例を発表

12月19日、県庁ミナモホールにおいて県下の農業普及課の優良活動事例を発表する「普及活動研究セミナー」が開催された。このセミナーでは、10月30日の選考会で選ばれた優良3事例の発表が行われ、当課もその一つとして発表した。

当課からは「スマート農業技術を活用した飛騨の新たな米づくりの実現」と題して、飛騨地域でのスマート農業活用事例を報告した。

特に、堆肥ペレット活用による耕畜連携や地域資源循環の取組みについては、参加者から質問が寄せられるなど関心を集めた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、スマート農業をはじめとする先進技術の導入・活用を支援していく。



【当課発表の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 「令和7年度新規就農者激励会」を開催

12月18日、新規就農者の意欲高揚と地域農業の活性化を目的に令和7年度新規就農者激励会を開催した。

当日は、担い手育成に関わる飛騨支部の指導農業士、青年農業士、女性農業経営アドバイザー、県市やJAなどが参加し、新規就農者7名に対して県知事からの「ぎふ農業担い手証書」が授与された。意見交換会では、新規就農者の疑問や悩みに対して、指導農業士や青年農業士などが自身の経験をもとにアドバイスし、新規就農者らは熱心に耳を傾けていた。

農業普及課では、地域農業の維持、発展を担う新規就農者の育成と定着のため、就農支援塾を開催し、経営安定に向けた支援をしていく。



【新規就農者激励会の様子】

■夏秋トマト 「儲ける農業」トマト産地全体研修会を開催

12月2日、JAひだ農業管理センターにおいて、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会の全体研修会が開催された。研修会は、約150人が集い、今年度の生産・販売状況の報告と次年度方針が決定された。

販売実績は、近年続く高単価により今年度も昨年度に続き、過去最高を達成し、多くの生産者は経営が好調であると推測される。

研修では、農業経営コンサルタントである合同会社アグリビジネスパートナーズの高津佐和宏氏を講師に迎え、「金持ち農家の経営戦略」と題して、インフレとなった現在の経済状況において、将来を見据えて、儲かっている今こそ取組むべき経営発展の考え方や経営のあり方、意識の持ち方等を講演していただいた。

農業普及課では、JAと連携して各支部での栽培反省会や個別面談を実施し、栽培技術と経営改善を一体的に助言、支援していく。



【経営等についての講演】

■担い手 「水稻担い手交流会」でアグリルックの活用提案

12月13日、JAひだ主催による「水稻担い手交流会」が開催された。この交流会は、飛騨地域3市1村の2ha以上の水稻担い手が対象で、当日は約50名の参加があった。全農からは米穀に関する情勢報告、資材メーカーからは水稻栽培の高温障害対策に関する情報提供がなされた。

農業普及課からは、今年度から試験運用を始めた農業情報サービス「アグリルック」の更なる有効活用について講演を行い、アグリルックを活用することで、高温対策を組み込んだ水稻栽培計画の立案も可能となることを情報発信した。

農業普及課では、地域再生協議会やJA等と連携し、アグリルックのフル活用による高温対策の支援等を行い、担い手の良食味生産や経営安定を図っていく。



【農業普及課による講演】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ほうれんそう 令和7年度飛騨ほうれんそう販売反省会を開催

令和7年12月に各地域のほうれんそう部会において、販売反省会が開催された。

本年度は、2月の降雪による出遅れや猛暑により、管理の難しい環境であったものの、全体としての単収は前年並を確保した。

反省会では、各支部の活動状況や生産販売状況の振り返り等が報告された。

農業普及課からは、高温に対応するための昇温抑制技術や、害虫対策等について研修を行った。

農業普及課では、今後、個別面談を通じて本年度の栽培管理の反省及び次年度の安定生産に向けた栽培技術の徹底や生産基盤の安定に向けた支援を行っていく。



【反省会の風景】